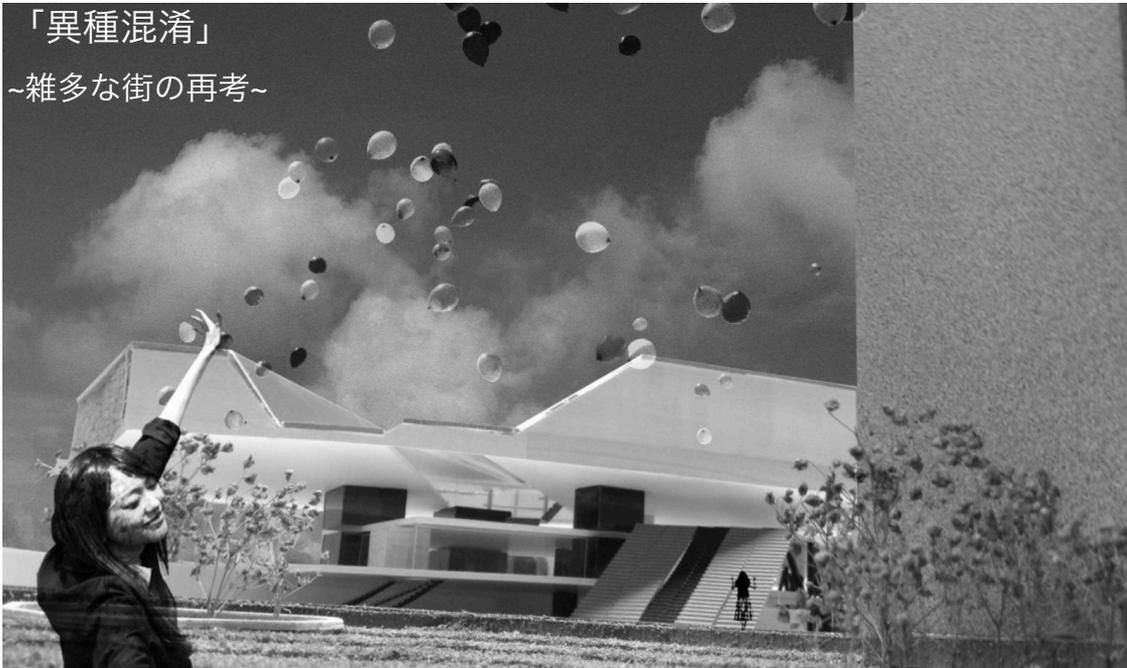


「異種混淆」

~雑多な街の再考~



榎本堂志
建築設計計画研究室

□「長年失われてきた共同性の回復と機能性からの開放。」

町田駅周辺は機能的動線（デッキ）により中心街と繋がり、街への発散性を欠いていると考えます。デッキの上で全て揃う。町田=デッキで繋がれた所という概念が来街者にとってあると感じます。そんな中近隣地域などで大型の商業地が計画され収益に影響を及ぼすようになった。そして市民の地域行事への参加率が年々下がっている。「機能性からの解放」と「地域性」を取り戻す事で商業地としてだけでない町田を新たに計画する。

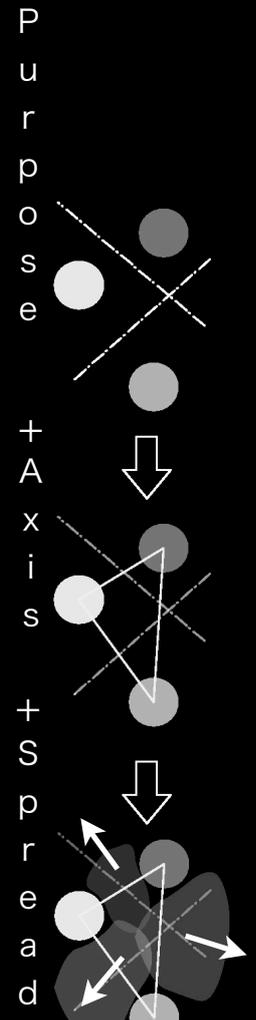
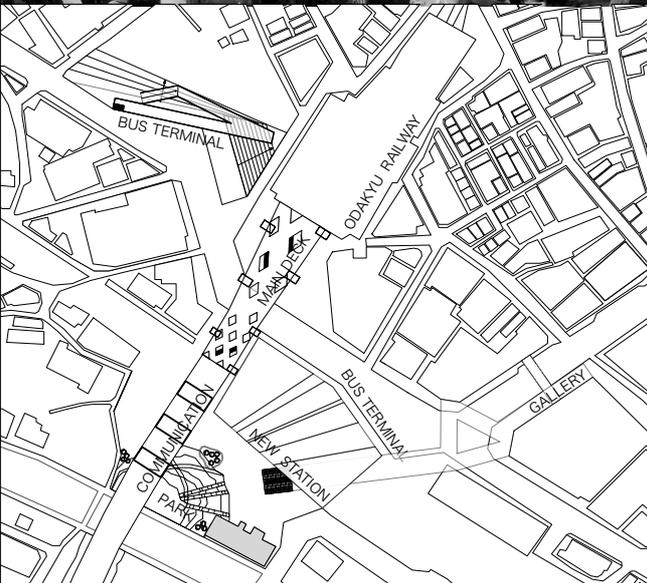


□各プログラムについて

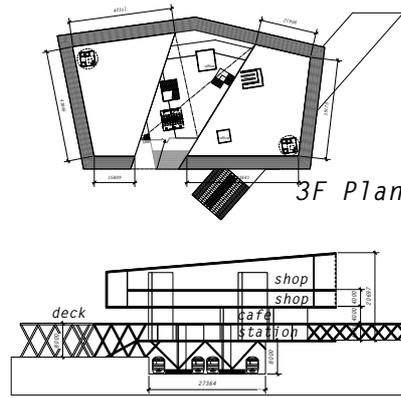
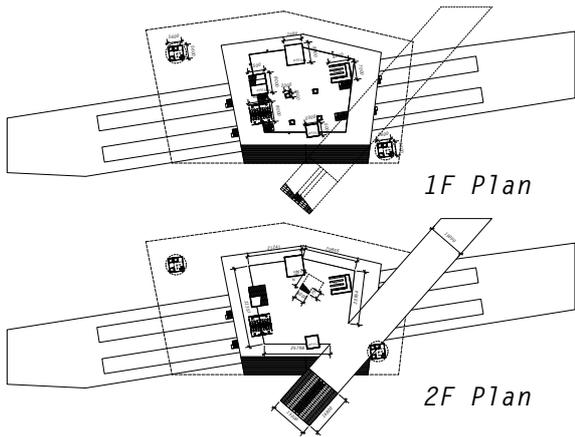
3つのプランを提案し町田再考を計画。1.デッキの再考/現在のデッキは主要な建物全てと繋がり街が完結する。機能を分解し「動線を優先したデッキ」と「活動を支えるデッキ」とし計画。2.バスターミナルの再考/乗降車が同位置計画される事で混雑が生じる。分解し計画する事で混雑の緩和を計画。3.JR新駅舎の計画/現在の駅舎は街と自然の関係を閉ざしている。関係を繋げる事で市民の活動を公共に繋げ計画。

□建物のダイアグラム

1.デッキ計画/「動線を優先したデッキ」は線路によって分断された空間を繋ぐよう計画。「活動を支えるデッキ」は版画美術館や祭りなどの活気を都市部へ伝える方向性の基準となるよう計画。2.バスターミナル計画/乗降スペース分けて計画し、降車側に新しく出来た市役所に対する玄関口を計画。3.JR駅舎計画/公園の中心と駅周辺の建物高を結んだ線で外壁を削りファサードを決定。削り取った場に自然と都市の調和を計画。

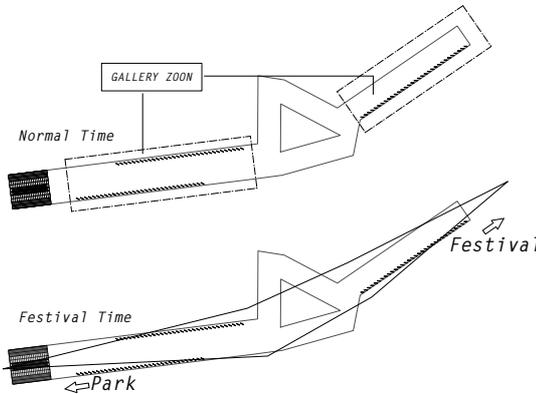


JR MACHIDA STATION PLAN



「JR駅舎」
現在の駅舎は、「駅としての機能」と「線路で隔たれた地を繋ぐ機能」を持っている。しかし、接点が弱い。2層の吹き抜けを用い空間の接続。そして、周辺の建物と公園との関係より高層化した都市からポリュームを切り取る。切り取られたことで都市と自然とが繋がる。

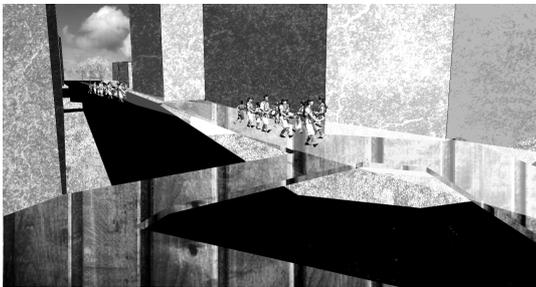
GALLERY DECK PLAN



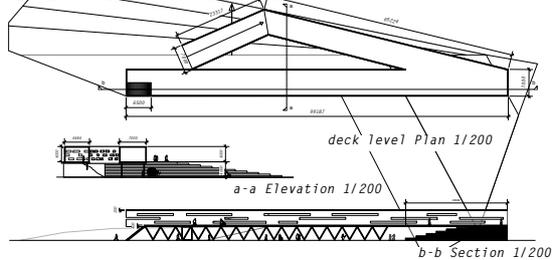
「GALLERY デッキ」
部分部分で行われ街としての活気を閉ざしている現在の地域行事。その活気を方向性をつけ市民の日常につなげる。
「国際版画美術館と都市」・「祭りと都市」を繋げる事で、市民と来街者が活動を知り活気が生まれる。



「公園から駅/ギャラリー方面」
周りの建物によってファサードが切り取られ都市と繋がる。この広場で活動を知り、地域性を取り戻す。

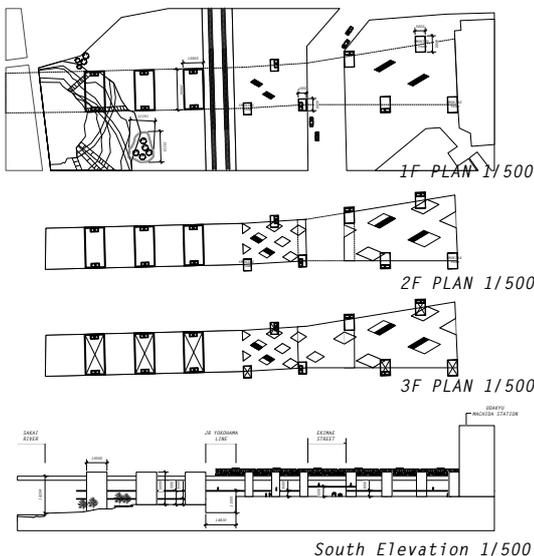


BUS TERMINAL PLAN

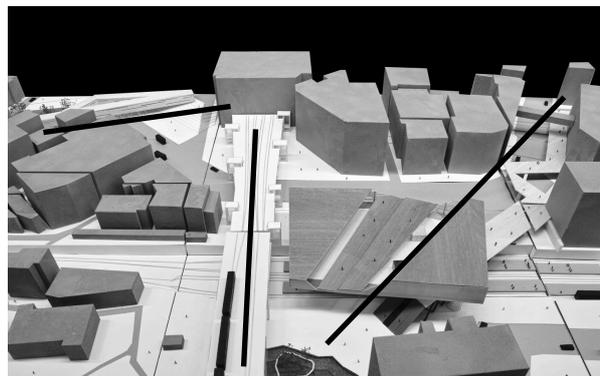
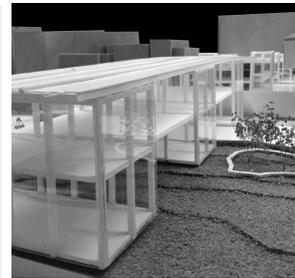


「バスターミナル」
2012年に市役所の新庁舎が完成した。しかし現在駅前に広場的空間がない。そこで乗降位置を分け、降車側に市役所に対する玄関口を計画。市役所前の広場とバス停の広場がその間の道を今後変化させる基盤となる。
動線として「機能重視」と「ゆとり」を計画。

MAIN DECK PLAN



「メインデッキ」
線路で分断された4象限に接続され、今までになかった動線を計画。川から都市への軸を作成。活動の場を計画し市民の活動を日常へ繋げる。



「全体構成」
3つの軸が構築され、途切れていた点が線でつながり、線から派生し面になり地域全体の基盤を形成する。商業地としてだけでなく「町田」を構築する。